

初版作成日 : 2021/12/13

改訂日 : 2023/03/03

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 :

製品名称 : オーバークリーンS 600g×6/CS

製品番号 (SDS NO) : 3667-2

推奨用途及び使用上の制限

使用上の制限 : 風呂、洗面所、厨房関係、トイレなどの排水管、グリストラップ、排水柵の洗浄

供給者の会社名称、住所及び電話番号

供給者の会社名称 : 横浜油脂工業株式会社

住所 : 横浜市西区南浅間町1-1

担当部署 : 技術開発部

担当者(作成者) : 平沢 肇

電話番号 : 045-311-4701

FAX : 0463-89-1330

緊急連絡先電話 : 045-311-4704

### 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類、GHSラベル要素

GHS分類

物理化学的危険性

酸化性固体 : 区分 3

健康に対する有害性

急性毒性(経口) : 区分 4

皮膚腐食性/刺激性 : 区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分 1

特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分 2(呼吸器系、神経系)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分 2(呼吸器系)

(注) 記載なきGHS分類区分 : 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

H272 火災助長のおそれ : 酸化性物質

H302 飲み込むと有害

H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

H371 臓器の障害のおそれ(呼吸器系、神経系)

H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ(呼吸器系)

注意書き

安全対策

P210 熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

P220 衣類及び可燃物から遠ざけること。

P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

P264 取扱い後は接触部位をよく洗うこと。

P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

P280 保護手袋/保護衣/保護面を着用すること。

P280 保護眼鏡/保護面を着用すること。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急措置

P370 + P378 火災の場合: 指定された消火剤を使用すること。

P314 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

P310 直ちに医師に連絡すること。

P308 + P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

P304 + P340 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P303 + P361 + P353 皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。

皮膚を水又はシャワーで洗うこと。

P363 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用し

ていて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P330 口をすすぐこと。

P301 + P312 飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。

P301 + P330 + P331 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。

貯蔵

P405 施錠して保管すること。

廃棄

P501 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

特定の物理的及び化学的危険性

酸化性がある物質である。有機物、可燃性物質を発火させる恐れがある。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 :

混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法番号	化管法(令和5年4月1日施行) 管理番号
水酸化カリウム	5未満	1310-58-3	1-369	-
水酸化ナトリウム	5未満	1310-73-2	1-410	-
ケイ酸塩	60 - 70	非公開	非公開	-
炭酸塩	15 - 25	非公開	非公開	-
EDTAのナトリウム塩	5.0	非公開	2-1265	管理番号595
陰イオン系界面活性剤	< 1	非公開	非公開	
鉱油	0.5 - 1.5	非公開	非公開	-

危険有害成分

安衛法「表示すべき有害物」該当成分

水酸化カリウム, 水酸化ナトリウム, 鉱油

安衛法「通知すべき有害物」該当成分

水酸化カリウム, 水酸化ナトリウム, 鉱油

化管法(令和5年4月1日施行)「第1種指定化学物質」該当成分

EDTAのナトリウム塩

4. 応急措置

応急措置の記述

一般的な措置

気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。

直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
 気分の戻らない時は、医師の診察/手当てを受けること。

皮膚(又は髪)に付着した場合

直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。  
 皮膚に付着した場合:多量の水で洗うこと。  
 皮膚刺激が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。  
 強アルカリ性の製品なので、石鹼を用いず微温湯を流しながら皮膚の刺激や、ぬるぬるする感じがなくなるまで洗い続ける。1時間以上を要することがある。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。  
 その後も洗浄を続けること。  
 眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。  
 寸秒でも早く洗眼を始め、入った物質を完全に洗い流す必要がある。洗眼を始めるのが遅れると障害を増大させるおそれがある。  
 眼の刺激が続く場合:医師の診察/手当てを受けること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
 気分が悪いときは医師に連絡すること。  
 飲み込んだ場合は医師の診察/手当てを受けること。  
 子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診察/手当てを受けること。  
 腐食性の製品なので、吐き出させるとかえって危険が増す。直ちに医療措置を受ける手配をする。

医師に対する特別な注意事項

症状に応じた治療を施す。

5. 火災時の措置

消火剤

適切な消火剤

火災の場合は霧状水、泡、粉末、炭酸ガスを使用すること。  
 この製品自体は燃焼しない。

使ってはならない消火剤

使ってはならない消火剤データなし

特有の危険有害性

加熱分解により発生する酸素ガスが周囲の可燃物の燃焼を助け、火災を激しくするので注意が必要である(支燃性がある)

消火を行う者への勧告

特有の消火方法

消火作業は、可能な限り風上から行なう。  
 関係者以外は安全な場所に退去させる。  
 周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。  
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。  
 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。  
 消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。  
 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。  
 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する

作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。  
風上から作業し、風下の人を退避させる。

着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

作業の際には保護具(必要に応じてガスマスク)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。

引火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

多量の場合、人を安全に待避させる。

#### 環境に対する注意事項

漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

下水、排水中に流してはならない。

河川等に流出した場合は、管轄機関に連絡をする。

流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

#### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。

付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、

雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。

大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

本製品は強アルカリなので、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。

必要があればさらに希塩酸、希硫酸等で中和する。下水溝、表流水、地下水に流してはいけない。

#### 二次災害の防止策

漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する

火花を発生しない安全な用具を使用する。

---

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

(火災・爆発の防止)

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

衣類及び可燃物から遠ざけること。

(注意事項)

製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。

アルカリ性なので、酸性の製品との接触を避ける。

取扱いは、屋外または換気のよい場所で行う。

取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。

取扱いの都度、容器を密閉する。

取り扱い後はよく手を洗うこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

#### 安全取扱注意事項

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

#### 接触回避

酸性物質との接触を避けること。

#### 衛生対策

取扱い後は汚染箇所をよく洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。

## 保管

### 安全な保管条件

- 施錠して保管すること。
- 製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- 日光から遮断し、40°Cを超える温度に暴露しないこと。
- 容器を密栓すること。
- 涼しい所、換気の良い場所で保管すること。
- 酸と一緒に保管してはならない。

### 安全な容器包装材料

- 軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、ポリエチレン容器に保管する。
- 銅、鉄、真鍮などの分解を促進する材料を使用してはならない。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理指標

管理濃度データなし

### 許容濃度

- (水酸化カリウム)
- 日本産衛学会(1978) (最大許容濃度) 2mg/m<sup>3</sup>
- (水酸化ナトリウム)
- 日本産衛学会(1978) (最大許容濃度) 2mg/m<sup>3</sup>
- (鉱油)
- 日本産衛学会(1977) 3mg/m<sup>3</sup>(鉱油ミストとして)
- (水酸化カリウム)
- ACGIH(1992) STEL: 上限値 2mg/m<sup>3</sup> (上気道, 眼及び皮膚刺激)
- (水酸化ナトリウム)
- ACGIH(1992) STEL: 上限値 2mg/m<sup>3</sup> (上気道, 眼及び皮膚刺激)
- (鉱油)
- ACGIH(2010) TWA: 可能な限り低く(L) (上気道刺激)

### ばく露防止

#### 設備対策

蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

#### 保護具

##### 呼吸用保護具

保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

##### 手の保護具

保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

##### 眼の保護具

保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

##### 皮膚及び身体の保護具

保護衣、保護前掛け等を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 基本的な物理的及び化学的性質に関する情報

物理状態：粉末

色：白色

臭い：原料臭

臭いの閾値データなし

融点/凝固点データなし

沸点又は初留点データなし

沸点範囲データなし

可燃性(ガス、液体及び固体): 燃焼しない

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界データなし

引火点：燃焼しない  
 自然発火点データなし  
 分解温度データなし  
 pH：13以上(10%水溶液)  
 動粘度：適用外  
 動粘性率：適用外  
 溶解度：  
     水に対する溶解度：溶ける  
     溶媒に対する溶解度データなし  
 n-オクタノール/水分配係数データなし  
 蒸気圧データなし  
 蒸気密度データなし  
 密度及び/又は相対密度：適用外  
 相対ガス密度(空気=1)データなし  
 粒子特性データなし  
 その他のデータ  
     蒸発速度データなし  
     かさ密度：0.63

---

## 10. 安定性及び反応性

### 反応性

反応性データなし

### 化学的安定性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

乾燥した冷暗所における有効酸素の残存率は、一年後で97～98%である。

### 危険有害反応可能性

この物質に水を注いではならない(激しく発熱する)。

### 避けるべき条件

加熱・熱源・裸火

水分、多湿雰囲気との接触

### 混触危険物質

酸性物質(アルカリ性物質のため、酸性物質との接触を避けること。)

鉄及びこれを含有する金属材料

銅及びこれを含有する金属材料

真鍮

### 危険有害な分解生成物

危険有害な分解生成物データなし

---

## 11. 有害性情報

### 毒性学的影響に関する情報

#### 急性毒性

急性毒性(経口)

[製品]

区分 4, 飲み込むと有害

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

rat LD50=273mg/kg (SIDS, 2004)

(EDTAのナトリウム塩)

rat LD50=1700-1913mg/kg (EU-RAR, 2004)

労働基準法: 疾病化学物質

水酸化カリウム; 水酸化ナトリウム

局所効果

皮膚腐食性/刺激性

[製品]

区分 1, 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

[製品データ]

[pHに基づく分類根拠]

11.5 ≤ pH であることから、皮膚腐食性/刺激性: 区分1に分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

ラビット/ヒト 腐食性 (SIDS, 2004; ECETOC TR66, 1995; 産衛学会許容濃度の提案理由書, 1978;

PATY 6th, 2012)

(水酸化ナトリウム)

ブタ/ラビット 重度の壊死 (ACGIH 7th, 2001 et al)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

[製品]

区分 1, 重篤な眼の損傷

[製品データ]

[pHに基づく分類根拠]

11.5 ≤ pH であることから、眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性: 区分1に分類した。

[成分データ]

[日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

ラビット 腐食性 (SIDS, 2004; 産衛学会許容濃度の提案理由書, 1978; PATY 6th, 2012)

(水酸化ナトリウム)

ラビット 腐食性 (SIDS, 2009)

(EDTAのナトリウム塩)

ラビット 軽度の角膜混濁 (EU-RAR, 2004)

呼吸器感作性又は皮膚感作性データなし

生殖細胞変異原性データなし

発がん性

[IARC]

(鉱油)

Group 1: ヒトに対して発がん性がある

[ACGIH]

(鉱油)

A2(2010): ヒト発がん性の疑いがある

[日本産衛学会]

(鉱油)

第1群: ヒトに対して発がん性があると判断できる物質

[EU]

(鉱油)

Category 1B; ヒトに対しておそらく発がん性がある物質

労働基準法: がん原性化学物質

鉱油

催奇形性データなし

生殖毒性データなし

特定標的臓器毒性

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

[製品]

区分 2, 臓器の障害のおそれ

[成分データ]

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

呼吸器 (ACGIH 7th, 2001; SIDS, 2004; PATTY 6th, 2012)

(水酸化ナトリウム)

呼吸器 (PATTY 5th, 2001)

[区分2]

[日本公表根拠データ]

(EDTAのナトリウム塩)

全身毒性 (EU-RAR, 2004)

[会社固有データ]

(ケイ酸塩)

神経系

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

[製品]

区分 2, 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ

[成分データ]

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

呼吸器 (ACGIH 7th, 2001)

誤えん有害性

[成分データ]

[区分1]

[日本公表根拠データ]

(水酸化カリウム)

cat. 1; ACGIH 7th, 2001; SIDS, 2004

(鉱油)

cat. 1; hydrocarbon, kinematic viscosity=17.0 mm<sup>2</sup>/s (40°C)

## 12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

[成分データ]

水生環境有害性 短期(急性)

[日本公表根拠データ]

(水酸化ナトリウム)

甲殻類 (ネコゼミジンコ属) LC50=40.4mg/L/48hr (SIDS, 2004)

(EDTAのナトリウム塩)

魚類 (ブルーギル) LC50=157mg/L/96hr (121 H4EDTA mg/L/96hr 換算値) (EURAR, 2004)

水生環境有害性 長期(慢性)

[日本公表根拠データ]

(EDTAのナトリウム塩)

甲殻類 (オオミジンコ) NOEC (繁殖、致死)=28mg/L/21days (22 H4EDTA mg/L/21days 換算値) (EU RAR, 2004)

水溶解度

(水酸化カリウム)

110 g/100 ml (25°C) (ICSC, 2010)

(水酸化ナトリウム)

109 g/100 ml (20°C) (ICSC, 2010)

(炭酸塩)

よく溶ける (14 g/100ml, 20°C)



(EDTAのナトリウム塩)  
 100 - 110 g/100 ml (20°C) (ICSC, 2006)  
 残留性・分解性(BOD・COD)  
 残留性・分解性データなし  
 生体蓄積性  
 [成分データ]  
 (EDTAのナトリウム塩)  
 log Pow=5.01 (calculated) (ICSC, 2006)  
 土壤中の移動性  
 土壤中の移動性データなし  
 他の有害影響  
 オゾン層への有害性データなし

13. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報  
 廃棄物の処理方法  
 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国連番号、国連分類

国連番号またはID番号 : 3084  
 正式輸送名 :  
 その他の腐食性固体、酸化性、N.O.S.  
 分類または区分 : 8  
 副次危険 : 5.1  
 容器等級 : II  
 指針番号: 157  
 特別規定番号 : 274

IMDG Code (国際海上危険物規程)

国連番号またはID番号 : 3084  
 正式輸送名 :  
 その他の腐食性固体、酸化性、N.O.S.  
 分類または区分 : 8  
 副次危険 : 5.1  
 容器等級 : II  
 特別規定番号 : 274

環境有害性

海洋汚染物質 (該当/非該当): 非該当

特別の安全対策

容器の破損、漏れがないことをたしかめる。  
 荷くずれ防止を確実に行う。  
 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。  
 直射日光を避ける。  
 水漏れ厳禁。  
 横積み厳禁。  
 夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。  
 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

MARPOL条約附属書V - HME(海洋環境に有害)

特定標的臓器毒性, 反復ばく露: 区分1 該当物質  
 水酸化カリウム

国内規制がある場合の規制情報

船舶安全法

腐食性物質 分類8

航空法  
腐食性物質 分類8

## 15. 適用法令

当該製品に特有の安全、健康及び環境に関する規則/法令

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物取締法に該当しない。

労働安全衛生法

特化則に該当しない製品

有機溶剤等に該当しない製品

名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物

名称表示危険/有害物

水酸化カリウム(別表第9の316); 水酸化ナトリウム(別表第9の319); 鉱油(別表第9の168)

名称通知危険/有害物

水酸化カリウム(別表第9の316); 水酸化ナトリウム(別表第9の319); 鉱油(別表第9の168)

化学物質管理促進(PRTR)法(令和5年4月1日施行)

第1種指定化学物質

エチレンジアミン四酢酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩(5.0%)[EDTAのナトリウム塩(5.0%)  
(管理番号595)]

消防法に該当しない。

化審法

優先評価化学物質

陰イオン系界面活性剤(政令番号175 生態影響)

水質汚濁防止法

指定物質

水酸化カリウム

法令番号 8

水酸化ナトリウム

法令番号 6

1日当たり平均的排水量50m<sup>3</sup>以上の特定事業場に適用される排水基準生活環境項目

鉱油

ノルマルヘキサン抽出物質含有量: 5mg-鉱油類/liter

## 16. その他の情報

参照文献及び情報源

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, UN

Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 21th edit., 2019 UN

IMDG Code, 2020 Edition (Incorporating Amendment 40-20)

IATA 航空危険物規則書 第62版 (2021年)

2020 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)

2022 TLVs and BEIs. (ACGIH)

JIS Z 7252 : 2019

JIS Z 7253 : 2019

2021 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)

Supplier's data/information

責任の限定について

※注意 安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。

ここに記載したGHS分類区分の算定根拠は現時点における日本公表データ (NITE 令和3年度(2021年度))です。